

## 女なのか彼女なのかどっちや

窮屈はのがれ得ない。

いくつものトンネルを抜ける。

そのたびに、涼しいと、首に風を当てる。

僕は憂鬱、こんな旅行終わって、早く、京都に戻って、彼女に会いたいのだ。まわりの友達が、皆、ガヤガヤして、目を閉じていても、その光景が頭に浮かび、幼く、あどけなく、見える。

その時、友達に急に、「お前、顔が真っ黒じゃー！」と言われて、目をパッチリ開けた。

それを見て、まわりの連中が皆、僕の顔見て、どーおっと、笑った。

この憂鬱な、悩める青年を、僕の心の中もわからず、先生も友達も、皆は、僕を笑い物にしている。

「お前、黒い斑点だらけだよ。」と、前の席の友達に、ニタニタしながら言われた。

「もしかして、疲れが出て、皮膚の、アレか、シミでもできたのかな。」